

根研究会の運営体制（1994－1995年度）

《会長（編集委員長兼任）》

森田茂紀（もりた しげのり），1954年1月30日生，〒113 東京都文京区弥生1－1－1 東京大学農学部，TEL:03-3812-2111（内線5465,5045），FAX:03-3815-5851：昨年の夏から秋にかけて約3ヶ月間、カナダのオワタにあるカールトン大学でトウモロコシの根の形態と機能についてマッカーリー教授と共同研究を進めました。日本がひどい暑さだった頃、家族と一緒にカナダの夏をエンジョイしていたわけですが、その成果を今年の研究に生かせればと考えております。

《運営委員（編集委員兼任）》

荒尾知人（あらお ともひと），1959年12月21日生，〒305 つくば市観音台3－1－1 農業研究センター土壌肥料部，TEL:0298-38-8828，FAX:0298-38-8837：現在の研究テーマは、畑地における養分フローモデルの開発です。

大崎 満（おおさき みつる），1950年9月6日生，〒060 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学農学部，TEL:011-706-3845，FAX:011-706-3845：1997年に第13回国際植物栄養科学会議が東京で開催されます。この中で Root structure and function のセッションが設けられます。すでに1st Circularが出ました。大崎宛に連絡していただければお送り致します。根の研究会会員の積極的参加と御協力をお願いいたします。

加藤 潔（かとう きよし），1943年11月生，〒464-01 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学情報文化学部，TEL:052-789-4778，FAX:052-789-4818：根による水の吸収と輸送は、生体機能を分子の属性に帰して理解する目下主流の還元的なアプローチだけでは理解が及び難いように思われる。古典的な問題でありながら、超現代的な問題なのかもしれない。

鯨 幸夫（くじら ゆきお），1949年9月29日生，〒920-11 金沢市角間町金沢大学教育学部，TEL:0762-64-5476,5475，FAX:0762-62-5605,5614：イネの根系形態におよぼす遺伝子と環境の影響について研究していますが、最近、コムギにも手を染め始めました。よろしく願います。

高橋秀幸（たかはし ひでゆき），1954年10月8日生，〒980 仙台市青葉区片平2－1－1 東北大学遺伝生態研究センター，TEL:022-217-5715（1995年4月1日以降），FAX:022-217-5699（1995年4月1日以降）：宇宙及び地球生命圏における植物の環境適応に関する基礎的研究が研究テーマです。

巽 二郎(たつみ じろう), 1948年2月14日生, 〒657 神戸市灘区六甲台町 神戸大学農学部, TEL:078-803-0632, FAX:078-803-0995:メインの所属は作物学会で、今の興味は、1) 根~茎関係とCとの分配・消費、2) 根系の生長戦略と空間配置、3) 耐湿性と通気システム、4) マメ科、非マメ科植物のN固定にあります。手法的には、安定同位体によるトレーサー法、フラクタルによる根系構造解析などを用いています。扱う植物は、イネ科、シカクマメ、セスバニア、ハス、ヤシヤブシなどです。昨年現地調査で掘出したヤシヤブシの根に大きな根粒(直径2 cm以上)がゴロゴロ着生しており、根の偉大さをあらためて感じた次第です。

谷本英一(たにもと えいいち), 1944年1月27日生, 〒467 名古屋市瑞穂区瑞穂町 名古屋市立大学教養部, TEL:052-872-5865, FAX:052-882-3075:植物学会、植物生理学会、植物化学調節学会、宇宙生物学会、生物教育学会などに所属し、主に植物学会と植物生理学会で研究発表を行なっています。研究分野は成長生理学で植物ホルモンの生長生理学、とくに成長に伴う細胞壁の変動を中心に研究しています。地上器官より取り扱にくい根の研究は、ホルモン作用の点でも同様で、オーキシンやジベレリンが効きにくい。この問題を克服し、やっとジベレリン誘導生長と根の細胞壁の関係が分析できるようになったところです。直ぐには役にたたない実験室での研究に、圃場での多彩な成長現象の解析を持ち込めることを期待しています。

原田二郎(はらだ じろう), 1943年10月15日生, 〒840 佐賀市本庄町1 佐賀大学農学部, TEL:0952-24-5191(内線2721), FAX:0952-22-6274:農作物の根系の構造と機能、およびその栽培的利用について研究に取り組んでいます。現在は、いろいろな作物の根の発育習性と量的変化に関心を持っています。それぞれの作物の根の発育習性を知り、それを自由に制御できたらというのが夢です。

平沢 正(ひらさわ ただし), 1950年10月29日生, 〒183 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学部, TEL:0423-67-5672, FAX:0423-60-8830:編集委員としてほとんど貢献することなく1年が過ぎてしまいました。本研究会には多分野の方が属しておりますので、私自身としてはこの機に根を共通の話題として、いろいろな視点から植物を考えたいと願っております。本年もよろしく願います。

松浦朝奈(まつうら あさな), 1965年4月26日生, 〒680 鳥取市浜坂 1390 鳥取大学乾燥地研究センター, TEL:0857-23-3411 内線 25, FAX:0857-29-6199:根ハンドブック発行により、日本にもこんなに広範囲な分野で根の研究が行われているということが分かりました。いろいろな意味でとても励みになっています。今年もいろいろな根の勉強をさせて頂きたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。

山内 章(やまうち あきら), 1956年8月12日生, 〒464-01 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学農学部, TEL:052-789-4022, FAX:052-789-4012:何か合言葉になってしまったような「忙しい」ことを言い訳に、自分の目でじっくりと根を観察することを怠っていることを、最近しきりに反省しています。根の研究会のおかげで広がった人の輪、情報は、そんな私にたいへん刺激を与えてくれます。さらに広い分野の研究者の方々に、研究会に参加していただいて、とくに本誌に投稿していただけるよう努力したいと思います。

山下研介(やました けんすけ), 1942年8月8日生, 〒889-21 宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学農学部, TEL:0985-58-2811(内線3106), FAX:0985-58-2884:「カンキツの栄養・生殖両生長の調節に果たす根系の役割の解明」が私のメインテーマで、根の機能分担、機能制御に関する実験に取り組んでいます。昨年9月-11月にケニアのナイロビ郊外にあるジョモケニアアッタ農工大学にPomology II(2単位)の集中講義と研究指導に行つて来ました。アフリカは初めてで、熱帯高地・低地における果樹栽培を見聞し、根研究の重要性について認識をあらたにしました。品種不詳の自根樹も多く、栽培管理もおそまつなものです。常夏の国のポテンシャルは高く、適正台木に優良品種を接木し、灌水、肥培管理に努めれば生産のレベルアップは間違いなし。その一つとして、例えば、VAM菌根の積極的な利用も考えられるように思われました。とかく理論に走りがちな「根研究」ですが、発展途上の農業振興にも結び付く実証的な「根研究」であり、「根研究会」でありたいものと考えます。

《監 査》

小柳敦史(おやなぎ あつし), 1960年5月18日生, 〒305 つくば市観音台3-1-1 農業研究センタープロジェクト研究第1チーム, TEL:0298-38-8512, FAX:0298-38-8484:研究会の運営に関するご意見をお気軽にお寄せください。

《事務局代表》

阿部 淳(あべ じゅん), 1962年3月30日生, 〒113 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部, TEL:03-3812-2111(内線5045), FAX:03-3815-5851:ここ2年は茨城県の試験場のお世話になって陸稲の根の研究をしています。国内では専ら加工用途で作付けも減った陸稲ですが、北関東の陸稲農家にとっては92年の干ばつ、93年の大冷害に続き、昨年は大干ばつと水稲の豊作による価格低落のダブルパンチで苦しい状況が続いていると聞き、まだまだ根の研究でやるべきことが残っていると感じています。